

---

# めだかギャルゲー 共通ルート編

みたらしそふと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

めだかギャルゲー 共通ルート編

### 【Zコード】

Z8358X

### 【作者名】

みたらじそふと

### 【あらすじ】

めだかボックスのキャラと設定を丸パクリしたギャルゲー風めだかボックス。ヒロインは女性キャラのほとんど！ あの誰得キャラの平戸ロイヤルも参加予定（嘘）。

## 第一箱『戦争じゃあつ……』

「おー、もう朝だ。起床しな」

ザツとカーテンを開けられて、日の光が俺の瞼を透かして赤い光が網膜に焼き付けられる。

俺は眠氣を堪えて無理矢理目を覚まさせぬ。

「……おはよつ、めだか」

目を開けると幼馴染のめだかが扇子を片手に、空いてる手を腰に当てる高圧的な態度をしていた。

「つむ。おはよつ口高。朝食はこつも通り作られてあるんだ」

相変わらず良い身体をしている。出るトロ出し、引っ込むとこは引っ込んでいる。更に見田麗しい顔。某シヤンプーのCMみたいに綺麗な髪が腰まで垂れ下がっている。完璧すぎて逆に怖い。

「あこよ。こつも」苦笑さん

「ではまた学校で」

そう言い残して黒神めだかは出て行つた。

はあ。毎度毎度疲れる奴だ。幾ら何でもこれは酷い罰ゲームか何かだ。

原因は妹の月見つきみが目安箱に変な依頼を投稿した所為だ。「お兄ちゃんの遅刻が治らないのでどうにかしてください」なんて投稿するものだから、めだかが懲々わなわな朝早くから起こしに来るんだ。

初日は最悪の朝だった。

基本面倒臭がりの俺はその日、めだかが起こしに来たのを知らず、てか夢だと思って無視していたら突然パンツ一丁にされてた。めだかにりかちゃん人形よろしく着替えさせられ、その際男性諸君なら誰しも経験した股間が大きくなる現象を、パンツ越しにめだかに見られた。

幼馴染の女子に見られて恥ずかしい思いをした俺は一度旅に出でしまった。

しかし、結局月見が目安箱に再投稿。「お兄ちゃんを旅から連れ戻して」。

我ながら月見の策略には勝てない。目安箱をここまで有効利用する人は他にいない。いや私的利用か。

リビングへ行くと月見が不機嫌そうにワインナーを頬張っていた。

「なに一人で俺の分まで食つてんだよ！」

チラッと俺を横目で一瞥。そして何事も無かつたように食事を再開。

「だから食うなつづーのー！ 兄の言つ事を聞け！」

「年上なら年下の無礼を包み込む大きな器を持つてろ

「だつたぢの前は年上を敬え！」

「未熟な者を導くのは年長者の役目だ。上が引っ張らないと下は着いて来ない」

「てめえ、やる気か？」

「上等だよ糞アーチキ。今日は僕が直々に起こしてやつたのこそ、堂々と無視しやがつて」

「スマンなあ。長身貧乳女の声は俺の鼓膜を震わさない仕組みになつているんだ」

ベキッと円見の堪忍袋の緒と箸が折れた音が部屋に響いた。

「戦争じやあつ……！」

「上等じやあつ……！」

今日の朝食が載つたテーブルを円見が卓袱台返しの如くひっくり返したのがゴングだった。

俺と円見の腕がクロスして、本日の遅刻が確定された。

昼休み、俺は食堂にいた。

俺が食堂にいるのは食べる為じゃない。食欲を無くすためだ。

え？ 結局食べる為だろ？ 違う違う。腹を空かせたまま食欲を無くすのだ。

今日は朝の月見との戦闘で弁当は作れず、財布も家に忘れてしまった。なのでアイツの食いつぶりを見に来た。

「不知火、隣良いか？」

「ありや？ 郡山先輩じゃないですか 良いですよ、私と一緒に食いましょう」

不知火の座るテーブルにはラーメンそばうどんソーキソバ焼きそばetcがずらりと並んでいる。世界中の麺類がここに集まっている。食っている量に対して割に会わない小学生低学年並の身体。こいつ、本当に一つ下か？ 飛び級じゃないかとたまに考える。

「いや、今日はお前と談笑しに来たんだ」

「あひやひやひや めずらしひつすね いつもはあまり人とは干渉しない先輩が、よりにもよって私と談笑ですか？」

こいつの喰いつぶりを見ていると、あまりの食事の量にこちらが腹いっぱいになる幻覚に陥る。食費を浮かすには打って付けだ。

「何が干渉しないだ。対人恐怖症じやねえぞ」

「そうですか？ 事実、人の事を避けてるじゃないですか」

「避けてねーし」

「いえ、避けてますよ！ 郡山先輩は知らぬ間に人から遠ざかって、人から嫌われて、人を嫌つてます」

こいつの洞察眼は的を得ているが、最後が違う。嫌つているんじゃなくて、周りに意見を合わせる人間が嫌いなんだ。だからお前やめだかは嫌いではない。

「そう言えば聞きましたか？」

「何を」

「人吉善吉について」

善吉について？ 別に何も聞いて無いが。アイツ、何か仕出かしたのか？

「聞いて無い」

「そうですよね～人が嫌いな郡山先輩は他人に興味無いですもんね

」

「気になるから教えるよ」

「ええ～？ 良いですよ～」

「めんどくせえ。最初の驚きはなんだよ？」

「善吉は、今日を持ちまして、女の子の善子ちゃんになりました！」

「」

「……どこのどこのをどう突つ込めばいいんだ？」

困惑してこの俺を尻目に、口にあらゆる麺を吸い込みながら言葉を吐き出す。

「私もよく知らないんですけど、どっかの異常やら過負荷の能力で女体化しました」

「おいおい不知火。幾ら何でもそんな突拍子の無い、事実確認の取れない話を信じじろと？」

「あひやひやひや　後ろ、振り向いてください！」

不知火に促されて、後方を振り返ると、一人の美少女が男子生徒用ブレザーを着て立っていた。

中性的で、美少年とも美少女とも受け取れる顔の構造。長く伸びた髪が鬱陶しいのか一つにまとめたポニーテール。微かに膨らんでいる胸元。一見すると、前に一度だけ会った善吉の母の瞳さんが十歳年取った姿のようだ。……いや正確には瞳さんが俺と同一年まで、普通の人と同じく成長した姿だ。

まさか、いやそんなアホな。

俺は信じない。信じるもんか。幼馴染の善吉が、あの男の中の男が、互いに自分の陰茎を見せ合った仲の人間が、

女になつたなんて。

「……そうか分かつたぞ！ お前、善吉の妹か姉だな！」

そうだ。これぐらいしか可能性が無い。だつてそんな、俺の唯一の親友が女になる訳

「実に残念なお知らせだが、俺人吉善吉は、女になつた

「問題！ 俺の工口本の隠し場所は！ ！」

「実物は持つてない。パソコンのデータとして保存されている。パスワード言つか？」

「…………結構です、善吉君」

親友が、TSF物語の主人公となつた瞬間だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8358x/>

---

めだかギャルゲー 共通ルート編

2011年11月13日07時29分発行